

114
A 4343
2

参照

○戒嚴令 明治三十五年八月
第三十六號 布告

第六條 軍團長師團長旅團長鎮邊營所要塞司令官警備隊司令官若クハ分遣隊長或ハ艦隊司令官ハ戒嚴ヲ宣告シ得ルノ權アリ司令官トス(十九年勅令第七十四号ヲ以テ要害司令官ノ下ニ警備隊ニハ十三字ヲ加フ)



大正
限
修
寄
贈
月

257
2
E



○徵兵令

明治二十二年一月
法律第一號

第五條 補充兵役ハ陸軍ニ在テハ第一補充兵

役第二補充兵役トシ第一補充兵役ハ七箇年

四箇月ニシテ其年所要ノ現役兵員ニ超過ス

ル者ノ中所要ノ人員之ニ服シ第二補充兵役

ハ一箇年四箇月ニシテ其年所要ノ第一補充

兵員ニ超過スル者之ニ服ス又海軍ニ在テハ

一箇年ニシテ其年所要ノ現役兵員ニ超過ス

ル者之ニ服ス(二十年法律第五
十三年法律第五十五
條)

第六條 國民兵役ハ分テ第一國民兵役第二國

民兵役トス

第一國民兵役ハ後備兵役及第一補充兵役ヲ
終リタル者之ニ服シ第二國民兵役ハ常備兵

役後備兵役補充兵役及第一國民兵役ニ在ラ

ナル者之ニ服ス(二十八年法律第十五條ヲ以

第十六條 豫備兵役後備兵ハ戰時若クハ事變ニ

際シ之ヲ召集ス平常ニ在テハ毎年一度六十

日以内勤務演習ノ為メ之ヲ召集シ又毎年一

度簡閱點呼ヲ為ス(九八年法律第十五號ヲ以

第十七條 第一補充兵及海軍補充兵ハ現役兵

ノ補缺ニ充テ又戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ

召集ス但第一補充兵ヲ以テ現役兵ノ補缺ニ

充ツルハ其服役ノ初年ニ限ル

第一補充兵ハ平常ニ在テ百五十日以内教育

ノ為メ之ヲ召集ス其他勤務演習及簡閱點呼

ヲ為スコト豫備兵ニ同シ(二十八年法律第十五條ヲ以テ次項共

同)

第二補充兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ第一補

充兵ヲ召集シ仍ホ兵負ヲ要スルトキ之ヲ召

集ス

○國民軍條例 明治二十八年一月勅令第十三号

第二條 國民軍ハ國民兵ヲ以テ之ヲ編制ス

第三條 國民兵ノ名集及解散ハ勅命ニ依リ師團長之ヲ行フ

戒嚴ヲ宣告シ得ルノ權アル司令官時機切迫シテ通信斷絶シ命ヲ請フノ途ナキトキハ直ニ召集ヲ行フコトヲ得

第四條 國民軍幹部ハ必要ニ應ジ現役豫備後備ノ陸軍將校同相當官准士官下士ヲ以テ充ツルノ外左ニ掲ケル者ヨリ選拔セテ之ニ充

- 一 退役ノ陸軍將校、同相當官准士官ニシテ
國民兵役ニ在ル者若クハ國民軍編入志願
ノ者
- 二 元陸軍下士、上等兵ニシテ國民兵役ニ在
ル者若クハ國民軍編入志願ノ者
- 三 國民兵中材幹技能アル者

○陸軍服役條例

第二十九年六月勅令
第二百三十八號

第八條

休職停職ヲ命セテレタル者

歸郷シタ

ルトキハ十四日以内ニ師團長ニ届出ヘシ但
歸郷旅行一箇月以上ヲ要スルトキハ到着日
ヲ豫定シ出發前本籍所管師團長ニ届出ヘシ
徒前、在職地若クハ其ノ他ノ地ニ一箇月以
上滞在若クハ寄留セント欲スル者ハ本籍所
管、師團長ニ届出テ歸郷シタルトキハ前項
ノ届出ヲ為スヘシ
前項ノ滞在地若クハ寄留地本籍地外、師管

ニ係ルトキハ滞在若クハ寄留ノ當日ヨリ十
四日以内ニ其ノ地所管ノ師團長ニ届出ヘシ
其ノ本籍ニ復帰シ若クハ寄留替ヲ為サント
スルトキ亦同シ

第二十五條 豫備役後備役將校ハ戰時若クハ
事変ニ際シ之ヲ召集ス平常ニ在テハ勤務演
習ノ為メ召集ス

第二十九條 現役ヨリ豫備役若クハ後備役ニ
入ル將校帰郷シタルトキハ十四日以内ニ師
團長ニ届出ヘシ

従前ノ在職地若クハ其ノ他ノ地ニ一箇月以
上滞在若クハ寄留セント欲スルトキ若クハ
帰郷旅行日數一箇月以上ヲ要スルトキハ本
籍市町村ニ於テ召集ノ命アルトキ之ヲ通報
スヘキ者賦年ニ限ルヲ定メ師團長ニ届出テ
歸郷シタルトキハ前項ノ届出ヲ為スヘシ
前項ノ滞在地若クハ寄留地本籍地外ノ師管
ニ係ルトキハ其ノ地ノ師團長ニ届出ヘシ
其ノ本籍ニ復帰シ若クハ寄留替ヲ為サント
スルトキ亦同シ

第三十條 豫備役後備役將校十四日以上旅行
或ハ寄留セントスルトキハ召集ノ命アルト
キ之ヲ通報スハキ者賦年以上限ハ定メ師團
長ニ届出テ歸郷シタルトキハ十四日以内ニ
師團長ニ届出ヘシ

(第二項第三項畧ス)

第七十六條 豫備役後備役下士ハ戰時若クハ
事變ニ際シ之ヲ召集ス平常ニ在テハ毎年一
度簡閱點呼ヲ為シ又勤務演習ヲ為シ召集ス
第八十條 現役ヨリ豫備役若クハ後備役ニ入

ル下士ハ十四日以内ニ従前ノ在職地ヲ出發
シ一日行程十里詰ヨリ勤カラサル日數間ニ
歸郷シ著後十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯
隊區司令官ニ届出ヘシ
従前ノ在職地若クハ其ノ他ノ地ニ十五日以
上滞在若クハ寄留セントスルトキハ前項ノ
出發期日內ニ本籍市町村ニ於テ召集ノ命ヲ
ルトキ之ヲ通報スハキ者賦年以上限ハ定メ
市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出テ歸郷
タルトキハ前項ノ届出ヲ為スハシ

前項ノ滞在地若クハ寄留地本籍地外ノ聯隊
區ニ係ルトキハ其ノ地ノ市町村長ヲ經テ同
地聯隊區司令官ニモ届出ヘシ其ノ本籍ニ候
歸シ若クハ寄留替ヲ爲サントスルトキ亦同
シ
第百十六條 帰休兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ
之ヲ召集ス平常ニ在テハ毎年一度簡閱點呼
ヲ爲シ又演習ノ爲メ若クハ臨時兵員ノ補缺
ヲ要スルトキ之ヲ召集ス
第百十八條 帰休兵ハ退營後七日以内ニ衛戍

地ヲ出發シ一日行程十里詰ヨリ數カテサル
日數間ニ歸郷シ著後七日以内ニ市町村長ヲ
經テ聯隊司令官ニ届出ヘシ
退營後衛戍地若クハ其ノ他ノ地ニ八日以上
滞在若クハ寄留セントスルトキ前項ノ出發
期日内ニ本籍市町村ニ於テ召集ノ命アルト
キ之ヲ通報スヘキ者賦子ニ限リテ定メ市町
村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出テ歸郷シタ
ルトキハ前項ノ届出ヲ爲スヘシ
前項ノ滞在地若クハ寄留地本籍地外ノ聯隊

區ニ係ルトキハ其ノ地、市町村長ヲ經テ同
地聯隊區司令官ニ届出ヘシ其、本籍ニ復
帰シ若クハ寄留替ヲ為サントスルトキ亦同
シ

第百廿七條

現役ヨリ豫備役若クハ後備役ニ
入ル兵卒ハ七日以内ニ衛戍地ヲ出發シ一日
行程十里詰ヨリ勤カラサル日數間ニ歸郷シ
著後七日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令
官ニ届出ヘシ
衛戍地若クハ其ノ他ノ地ニ八日以上滞在若

クハ寄留セントスルトキハ前項ノ出發期日
内ニ本籍市町村ニ於テ召集ノ命アルトキ之
ヲ通報スヘキ者賦年ニ限ルヲ定メ市町村長
ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出テ歸郷シタルト
キハ前項ノ届出ヲ為スヘシ

前項ノ滞在地若クハ寄留地本籍地外ノ聯隊
區ニ係ルトキハ其ノ地、市町村長ヲ經テ同
地聯隊區司令官ニ届出ヘシ其、本籍ニ復
帰シ若クハ寄留替ヲ為サントスルトキ亦同
シ

○屯田兵條例

百廿三年勅令
百八十一号

第四條

屯田兵ノ服役期限ハ二十箇年ニシテ

現役八箇年後備役十二箇年トス(廿七年勅令九十四号ヲ以テ本項改正)

後備服役中ハ戰時若クハ事變ニ際シ召集ス

又平時ニ在リハ勤務演習ノ爲メ召集シ及簡

閱照呼ヲ為ス(廿七年勅令九十四号ヲ以テ本項改正)

(三項畧)

第五條

後備役滿期後十箇年間補充兵役ニ服

セシメ戰時若クハ事變ニ際シ召集ス

第八條

此條例實施以前ニ召集シタル屯田兵

ハ左ノ區別ニ依リ服役セシム

一明治二十二年以後明治二十四年以前ニ召

募シタル者及明治二十五年以後明治二十

七年以前ニ召募シタル騎兵砲兵工兵ハ三

箇年間現役ニ四箇年間豫備役ニ十三箇年

間後備役ニ服役セシム(廿七年勅令九十四号ニ以テ本項追加)

〔前後各項巻〕

第十條 豫備服役中ハ戰時若クハ事變ニ際シ

召集ス又平時ニ在テハ勤務演習其ノ他特ニ

公務ニ服役セシムル為メ召集ス(廿七年勅令九十四号ヲ以テ本項改正)

○屯田兵後備役兵村及下士兵卒監視規則廿九年

二月三日勅令第百三十九号

第一條 屯田後備役各兵村ニ兵村監視ヲ置キ

其ノ兵村ノ開墾耕稼ニ関スル事務及下士兵

卒ノ服役ニ係ル事務ヲ取扱ハシム

兵村監視ハ後備役屯田各兵科曹長ヲ以テ之

ニ充ツ其ノ身分取扱ハ召集中ノ者ニ同シ

第五條 屯田後備役下士兵卒十四日以上旅行

或ハ寄留セントスルトキハ召集ノ命アルト

キ文ヲ通報スルキ者戰時以上限ルヲ定メ兵村

監視ヲ經テ隣隊區司令官ニ願出テ許可ヲ受
ケタル後其ノ出發時日ヲ兵村監視ニ届出テ
歸村シタルトキハ十四日以内ニ兵村監視ニ
届出ヘシ其ノ寄留替ヲ為サントスルトキ亦
本條ニ依リ許可ヲ受ケヘシ

第十二條 本規則ハ隊伍ニ編入セザル屯田豫
備役下士兵卒及其ノ兵村ニ適用ス但ル、場
合ニ在テハ兵村監視ハ豫備役屯田各兵科曹
長ヲ以テ之ニ充ツ其ノ身分取扱ハ召集中ノ
者ニ同シ